

Asia Indicators

発表日: 2020年9月11日(金)

韓国・失業率は大きく低下も、内容には不透明感 (Asia Weekly(9/7~9/11))

～高齢層や非正規を中心に雇用拡大の動きの一方、労働市場からの退出の動きも続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/7(月)	(台湾)8月輸出(前年比)	+8.3%	+1.6%	+0.4%
	8月輸入(前年比)	+8.5%	+0.7%	▲6.8%
	(中国)8月輸出(前年比)	+9.5%	+7.1%	+7.2%
	8月輸入(前年比)	▲2.1%	+0.1%	▲1.4%
9/8(火)	(台湾)8月消費者物価(前年比)	▲0.33%	▲0.30%	▲0.52%
9/9(水)	(韓国)8月失業率(季調済)	3.2%	--	4.2%
	(中国)8月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.4%	+2.7%
	8月生産者物価(前年比)	▲2.0%	▲2.0%	▲2.4%
9/10(木)	(フィリピン)7月輸出(前年比)	▲9.6%	--	▲12.5%
	7月輸入(前年比)	▲24.4%	--	▲23.1%
	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	1.75%	1.50%	1.75%
9/11(金)	(マレーシア)7月鉱工業生産(前年比)	+1.2%	+0.9%	▲0.4%

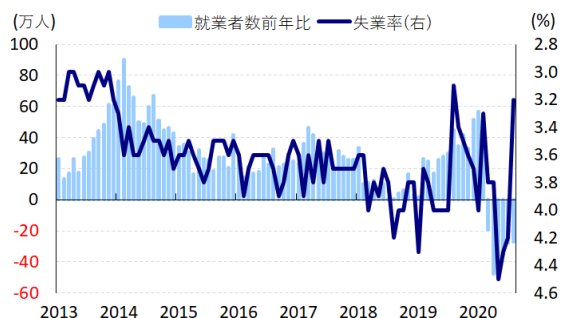
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～失業率は大幅に低下するも、高齢層かつ非正規で雇用拡大の背後で労働市場からの退出の動き～

9日に発表された8月の失業率(季調済)は3.2%となり、前月(4.2%)から1.0ptと大幅に低下して4ヶ月ぶりに4%を下回る水準となった。失業者数は前月比▲28.8万人と3ヶ月連続で減少しており、前月(同▲3.4万人)から減少ペースが加速したほか、中期的な基調は拡大傾向で推移するもそのペースは鈍化するなど急速に頭打ちしている。年代別では、10代を除くすべての年代で減少しており、なかでも50代及び60代以上の高齢層を中心に改善の動きが急速に進んでいる。一方の雇用者数は前月比+11.4万人と4ヶ月連続で拡大しており、前月(同+7.2万人)からそのペースも加速している一方、中期的な基調は引き続き減少傾向で推移している。年代別では、10代及び30代で減少している一方、それら以外の年代で拡大しており、なかでも50代及び60代以上の高齢層で拡大の動きが強まっている。雇用形態別でも、非正規雇用を中心に拡大の動きが強まっており、足下の雇用拡大の動きは高齢層かつ非正規雇用が中心になっているとみられる。なお、労働力人口は前月比▲1.7万人と前月(同+0.4万人)から4ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向が加速している上、年代別ではすべての年代で減少するなど労働市場からの退出の動きが強まっている。こうした動きを反映して労働参加率は62.1%と前月(62.5%)から▲0.4pt低下して6年半強ぶりの低水準となっており、失業率低下

の背後で雇用環境の質は悪化していると捉えられる。

図1 KR 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～世界経済の回復期待に加えて駆け込みの動きも押し上げ要因となり、月次の輸出額は過去最高に～

7日に発表された8月の輸出額は前年同月比+8.3%となり、前月(同+0.4%)から伸びが加速した。前月比も+10.8%と前月(同▲0.1%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、前月に一服感が出た流れが再び拡大したほか、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れが進んでいる。経済活動の正常化の動きが進む中国本土や香港向けに底入れの動きが強まっているほか、米国や日本、EUなど先進国向けも堅調に推移している上、ASEANをはじめとするアジア新興国も底入れしており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)を巡る不透明感にくすぶる一方で世界経済の回復期待や米中対立の激化懸念による駆け込みの動きが輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+8.5%となり、前月(同▲6.8%)から4ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+8.5%と前月(同▲0.5%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出に遅れる形で底入れが進んでいる。中国本土や香港からの輸入に底入れの動きがみられるなど、サプライチェーンの見直しの動きなどを反映した生産拠点の移転が影響している可能性があるほか、米国やEU圏などからの輸入も堅調な推移をみせており、生産活動の正常化の動きが需要の押し上げに繋がっているとみられる。結果、貿易収支は+64.66億ドルと前月(+53.69億ドル)から黒字幅が拡大している。

8日に発表された8月の消費者物価は前年同月比▲0.33%と7ヶ月連続のマイナスとなったものの、前月(同▲0.52%)からマイナス幅は縮小した。前月比は+0.18%と前月(同+0.13%)からわずかに上昇ペースは加速しており、国際原油価格の底入れの動きに一服感が出ていることを受けてエネルギー価格は下落している一方、生鮮品を中心に食料品価格は上昇に転じており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.31%と前月(同+0.13%)から伸びが加速しているものの、前月比は▲0.02%と前月(同+0.09%)から3ヶ月ぶりの下落に転じるなど物価上昇圧力は後退している。国際商品市況の底入れの動きなどを反映して一部の耐久消費財で物価上昇圧力が強まる動きがみられる一方、新型コロナウイルスの克服による経済活動の正常化が進んでいるにも拘らず雇用・所得環境の不透明感がサービス物価の重石となるなど、全般的に物価上昇圧力は後退している。

図2 TW 貿易動向の推移

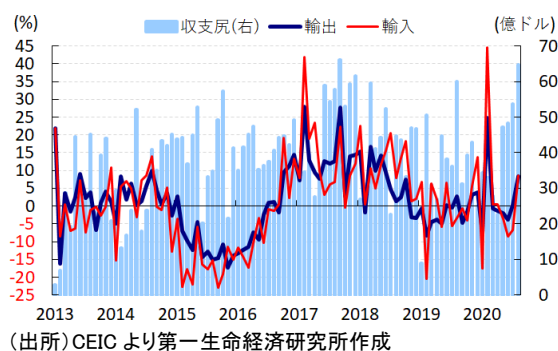
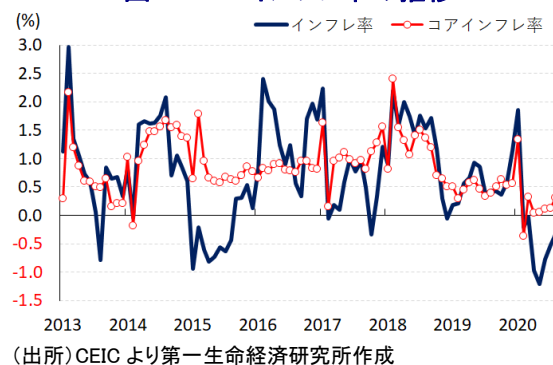


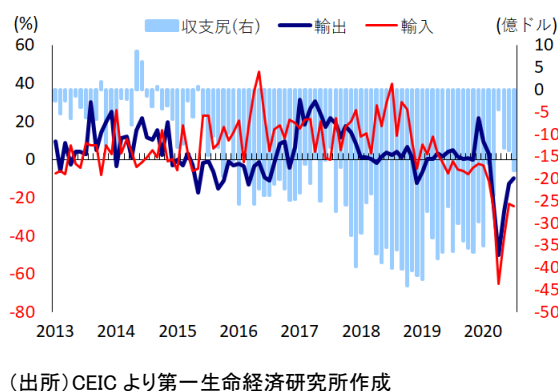
図3 TW インフレ率の推移



[フィリピン]～経済活動の正常化を受けて輸出は一段と底入れしており、その動きに呼応して輸入も底入れ～

10日に発表された7月の輸出額は前年同月比▲9.6%と5ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲12.5%)からマイナス幅は縮小した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど、5月中旬以降に一部の業種を対象に操業再開が認められたことに加え、6月以降の首都マニラ周辺での外出制限措置の緩和により経済活動の正常化が進んでいることも輸出の押し上げに繋がっている。財別では、農産品関連の輸出は鈍化しているものの、主力の輸出財である電子部品関連を中心に底入れが進んでいるほか、鉱物資源関連も同様に底入れしている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国や日本、EUなど先進国向けのみならず、ASEANなど新興国向けなど幅広く底入れが進んでいる。一方の輸入額は前年同月比▲24.4%と15ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲23.1%)からマイナス幅も拡大した。前月比は3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど輸出同様に底入れしている。国際商品市況の底入れの動きに加え、経済活動の正常化を受けて幅広い財で輸入が押し上げられていることも影響している。結果、貿易収支は▲18.27億ドルと前月(▲13.75億ドル)から赤字幅が拡大している。

図4 PH 貿易動向の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。